

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°4 ドメーヌ・ド・ヴェイユ

生産地方：ロワール

新着ワイン2種類♪

AC シュヴェルニー2020（白）

2023年以來2年近くぶりの再リリース♪2020年は日照りに加えてロワールでは珍しくオイディオムが猛威を振るった年だった。収穫したブドウは日照りにより房が小さい上に果汁が少なく、またオイディオムに当たったブドウはワインの味わいに影響しないように、収穫前に季節労働者を動員し房ごと捨てる厳しい選果を行なったため、最終的な収量は20hL/haと60%減だった。だが、厳しい選果の甲斐があり、出来上がったワインはボリューム豊かでソーヴィニオンブランらしいハーブの爽やかさのある味わいに仕上がった！そして、前回リリースからさらに現地のカーヴで2年寝かせた今回のシュヴェルニーは、前回よりもアルコールのボリューム感は落ち着き、まろやかで味わいに一体感が出ている！まさに今が飲み頃！

AC シュヴェルニー2021（赤）

2021年を入れてあと2022年と2ヴィンテージしか残っていないヴェイユのワイン。2021年は、2016年に次ぐ大規模な霜の被害とミルデューによりブドウが凶作だった。また、1年を通して気温が涼しかったためブドウは晩熟で、ロワールらしいチャーミングな酸のあるワインが出来上がった。ミッシェル曰く、瓶詰め直後のワインは若いタンニンの収斂味が目立っていたが、カーヴでの3年の瓶熟成を経て今はタンニンがきれいにこなれて味わいに溶け込み、今がまさに飲み頃を迎えているとのこと。確かに、ワインはエレガントかつタンニンが繊細で、ストラクチャーを構成する滋味豊かなミネラルとのバランスも良い！まさにロワールのピノ・ガメイ「The シュヴェルニー」！現地のカーヴで3年の瓶熟を経て上品に整ったワインが、今のこのご時世ではあり得ないほどのお手頃価格で飲めるのは何とも幸せなこと！ファイナルカウントダウンまであと2ヴィンテージ！ぜひお見逃しなく♪

ミレジム情報 当主ミッシェルのコメント

2020年のロワールは、かつてないほどブドウが早熟で収量にも恵まれた当たり年だったのだが、ヴェイユは逆に日照りとオイディオムにより収量が大幅に落ちたとともに厳しい年だった。冬のスタートは暖冬で雨が多かった。3月半ばに5月中旬並みの暖かさが続き、ブドウは一斉に芽吹いた。4月に0℃前後まで下がる寒波が降りたが、ほとんどのブドウは影響がなかった。開花は6月初めと例年よりも2週間ほど早くとも順調だった。だが、6月中旬からぱったりと雨が止み猛暑と日照りが続いた。ヴェイユの畑は砂地土壌ゆえ水はけが良く、却ってそれが水不足に拍車をかけた。加えて、8月に季節外れのオイディオムが猛威を振るい、収穫時には厳格な選果を余儀なくされた。

2021年は、春の遅霜とミルデューによりブドウの収量が大幅に減ったととも厳しい年だった。4月5日から8日にかけてシュヴェルニー帯に寒波が降りた。早朝の気温は-3℃~-7℃まで下がり、主芽はほぼ全滅。その後遅れて出てきた副芽も房が少なく、霜による被害は60%以上に及んだ。また5月、6月は気温の上がない雨の多い不安定な天候が続き、ブドウの成長は前年よりも1ヶ月ほど後れを取った。湿気によりミルデューが猛威を振るい、結局7月の時点で70%のブドウが失われた。7月中旬になると雨も止み再び太陽が戻ってきたが、気温は穏やかで、ブドウの成熟にも時間を要した。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



2023年、完全にヴィニヨン生活にピリオドを打ったミッシェル。今は写真左の新オーナーMatthieu ARCOUR (マチュ・アルクール) が Domaine de Veilloux の名前をそのまま残し、ドメーヌを再スタートさせた。(写真①) 一時、ミッシェルが引退を宣言してからドメーヌとのコンタクトが途絶えたため、しばらく音沙汰がなかった。だが、去年の冬に久しぶりに連絡が届き、まだミッシェルの当時仕込んだワインがドメーヌの在庫としてあると聞いて、早速近況の確認がてらドメーヌを訪れてみた。

(写真①) 新オーナーのマチュとミッシェル

ミッシェルが言うには、2022年夏に66歳を迎え、引退と共に畑や醸造所、そしてワインの在庫全てをマチュに引き継いだのだが、自身が仕込んでいないワイン在庫の販売にマチュが苦勞していたようだ。そうでなくても、ドメーヌを手に入れたばかりで畑の仕事や自分の新しいワインの醸造販売など他にやることが山のようにあるマチュ。引き渡した側としての責任を感じたミッシェルは、彼自身が仕込んだミレジムだけでも売り切ろうと思立ち、再度旧クライアントに連絡を取り始めたのだそうだ。

ヴェイユーと言えば、我々ヴァンクールの立ち上げ当初から付き合いのある最古参のヴィニヨンであり、ヴァンクールの歴史を語る上でなくてはならない存在だ。他の生産者に比べるとヴェイユーのワインはややクラシック寄りの味筋だが、コストパフォーマンスの高さはいつもダントツだった。我々ヴァンクールも一度公式にヴェイユーの引退を発表したが、年齢70に近いミッシェルの最後の頼みであればもう一度力になってあげたいという思いは全員共有している。あとは、気になるのはストックのワインがどのような状態にあるかだけ。前回、ヴァンクールが最後に販売したのは2023年で、そこから2年近くの歳月が経っている。熟成を経たワインは果たしてどのように変化しているのだろうか…?

「まずは2020年のヴェイユーブランから」とミッシェルがグラスにワインを注いだ。2020年と言えば前回2023年に販売している。太陽に恵まれた年でボリュームがあり美味しかった記憶がある。でも、まだ現地に在庫があったの!? ミッシェルに尋ねると、彼曰く、当時予約完売されていたのだが、コロナの後の経済不調により予約のキャンセルがあったのだそうだ。グラスを口にすると…フレッシュさは失われず、かつてあったアルコールのボリューム感もきれいに落ち着きワインがいい感じで馴染んでいる! 期待以上に美味しかったので驚いてしまった。既に2023年販売時に終売を謳ってしまったが、「これはやるべきワイン」と思い一気にテンションが上がった。次の2021年ブランも同様に、試飲してみるとフレッシュ感が全く落ちておらず、ロワールのソーヴィニオンらしさが前面に出ていてこれも美味しかった。さらに今回リリースするヴェイユールージュ2021年も試飲したが、味わいが球体になりつつあり、熟成による妙味が遺憾なく発揮されていた!

ちなみに、ミッシェルが仕込んだワインは2022年ヴィンテージまでであるそうだ。ファイナルカウントダウンまであと白はあと2ヴィンテージ、赤はあと1ヴィンテージ! 日本では「おかえり〜ヴェイユー!」というかたちで、一度終売宣言したワインの再販を開始いたします! コストパフォーマンスの高いヴェイユーのワイン、是非ミッシェルの最後のヴィンテージまで応援をよろしくお願いします!

(2024.10.22.&2025.2.6のドメーヌ突撃訪問より)